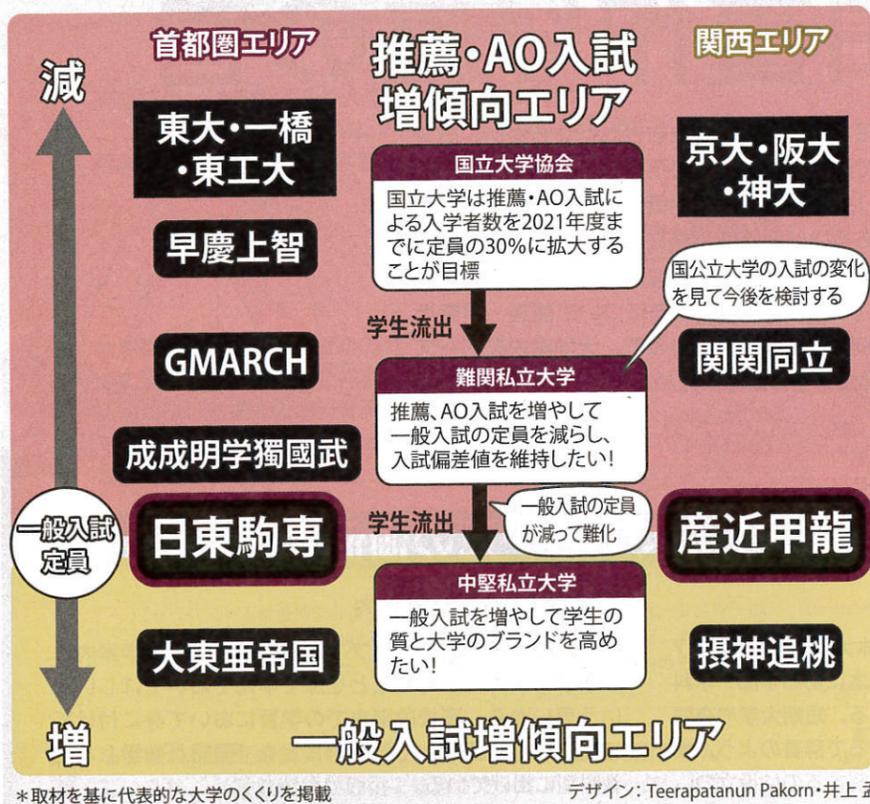




### 日東駒専以上は推薦・AO入試を増加

一般入試割合増減マップ



新しい入試といえば、代表的な活用すれば、多くの大学に合格するチャンスが今後、増えてくるともいえるだろう。

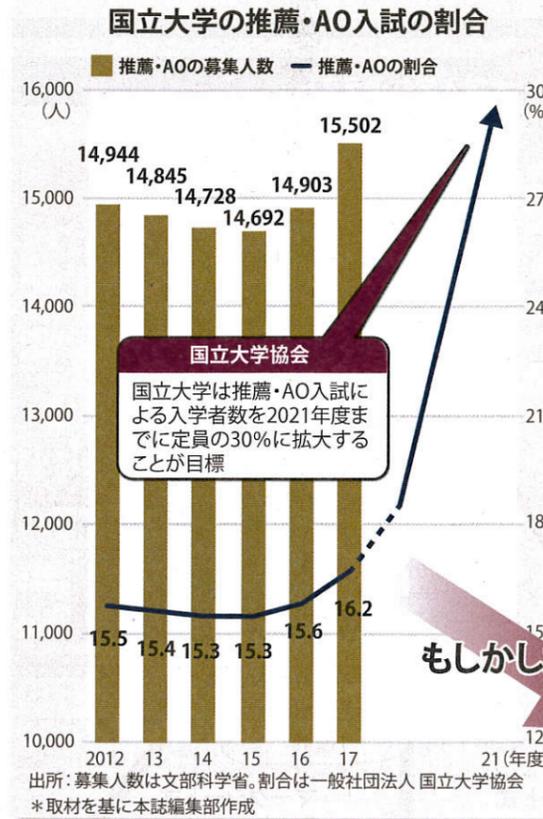
**新テストに備えつつ  
新大学独自の入試  
と並行対策が吉!**

新しい入試といえ、代表的な活用すれば、多くの大学に合格するチャンスが今後、増えてくるともいえるだろう。

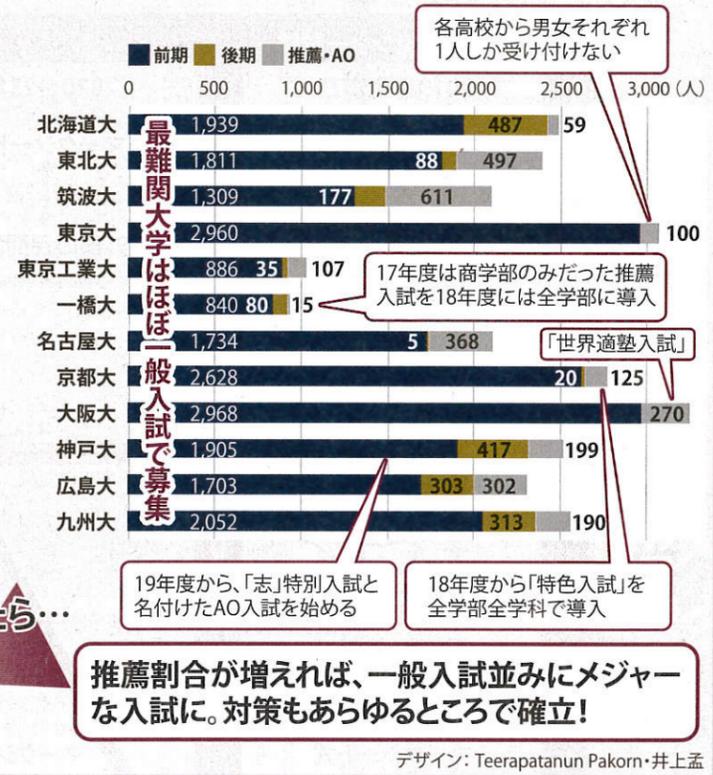
のが、上智大学などが実施しているTEAPの併用入試だろう。河合塾のデータによれば、上智大総合人間学部社会福祉学科のTEAP併用入試は2科目で偏差値60と、青山学院大学などMARCH並み。一見難易度は低く、合格しやすく感じるだろう。ところが、実はそうでもないの

### 21年度までに30%に拡大

国立大学の推薦・AO入試定員数と割合



主な国立大学の入試種類別募集人数(2017年度)



だ。英語以外は上智大の独自の入試科目を受験するためだ。都内私立高校の教員によれば、得意な英語がTEAPに置き換わることで、英語で差が出にくく、日本史や国語で実力差が出してしまうという。

さらに、他の日程とは試験傾向が異なりマーク式が少なく、論述や抜き出しの問題、文章量が多い(東京都内高校教員)という。国語の場合、古文と漢文の融合問題などが出題されるという。

つまり、英語が得意な人にとつては英語以外の科目が障壁になり、歴史や国語が得意な人が受験したから受かりやすい試験といえるのだ。英語が得意な人が実は報われにくい入試ということもできる。

新共通テストの将来形ともいえるべきテスト。将来の新共通テストもこのような状況になってしまうのであろうか。

次に、推薦入試、AO入試はどうか。16年に東京大学、京都大学が推薦入試を行ったことで当時は話題になった。しかし、両大共に2年連続の定員割れだ。

その要因が、数学オリンピックや全国レベルのコンクールで突出した才能を示すことが条件で、さらにセンター試験も必要だということだ。

そのための、今では注目は一段落したが、一般入試と併用するには負担がかり過ぎるのが問題だろう。しかし、今後推薦入試を実施する国立大の数が増えれば状況は変わってくるだろう。

それは、国立大学協会が、推薦・AOの入学定員を21年度までに30%に拡大することからも予測できる。右図を見てほしい。17年度は東北大学、名古屋大学、筑波大学、広島大学でAO入試の割合が高い。これは比較的早くから実施してきたからだ。

一方で、18年度入試では国公立大で新しい動きが出ている。例えば、京大、一橋大学は、18年度から全学部で拡大する。

その他、神戸大学が19年度からセンター試験を課さない「志」特別入試というAO入試を実施。

英語の民間試験などにこの機会に積極的に取り組めば、日本の大学入試以外に、海外留学や海外・日本企業での就職、次ページ以降で紹介する大学編入や医学部編入でも有利に働けるという。「小学生のうちから英検で慣れるといい」前出・小野田)という。

新しい入試だけでなく、中学3年生以下は将来を含めたさまざまな大学の動きや入試の変更点に注目していくべきだろう。

考慮して受験させる可能性が高い」というのは難関大学受験に定評のある慶應受験会を運営するエデュケーション・ブレイン代表の菅谷隆臣の意見だ。

しかし、この民間試験対策に必要な4技能を教えらるる指導者不足が問題だ。学習塾や学校には、正直まだ教えらるる指導者は少ない。だから外部に相談したり研修会に参加したりして「んやわんや」(学習塾関係者)だという。

ここで注意したいのは、すぐに英語の試験が民間試験に置き換わるのではないということ。完全に変わるのには24年度以降の話だ。

23年度までは、現センター試験のマーク式試験と文科省が認定した民間試験のどちらか一方、もしくは両方を利用できるような流れになる。それ以降は一本化されていく。さらに、地理歴史・公民や理科の試験でも、24年度からの記述式の導入が検討されていく。

それはさておき、新テストの出題内容、対策が一番気になるところ。文科省は国語と数学の問題の例を示している。

それを見て、教育現場のプロは具体的な対策についてどう考えているのだろうか。

前出の菅谷は「数学に関しては、今まで通りの問題よりレベルは上

がるが、塾や学校で対策は十分可能だろう。複数の資料を読み込む力や考えを多角的に素早くまとめることが求められる」。難問ではあるが、対策は塾や学校で可能のようだ。

ここまで見ると対策に問題はないうように感じるだろうが、実は国語が問題なのだ。

「国語は数学に比べてかなりの難問。例えば、契約書の問題が出ていた。受験生自身が見聞きした経験がないと解きにくい内容だ。こういった問題が出題された場合、明らかに経験の差がかなり出てくる」「菅谷」と話す。では対策はどのようなイメージだろうか。

「生活に関連する問題を解けるようになるには、家庭の中で日頃からさまざまなことを体験させて、世の中の出来事に広く興味を持たせる。親の仕掛けが必要だ」という。

国語に関しては、普段から意識の持ち方や、家庭環境が大きく左右する問題といえるだろう。今のうちから、学習塾などを利用して、自分で小論文や文章を書いたりまとめたりと、毎日何かしらコツコツ練習するしかないのだ。

新共通テストの行方も気になるが、それ以外にもさまざまな入試が開始されている。このような入試